

埋文よこはま 9



財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター 平成 16 年 3 月 28 日発行

杉田東漸寺貝塚の発掘

遺跡の位置と発掘調査のあらまし

杉田東漸寺貝塚は、磯子区杉田一丁目 8 1 の横浜市立杉田小学校の敷地にあります。かつては根岸湾の海に臨む場所でした。標高 4 ~ 5 m の低地に

ある遺跡です。もとは東漸寺の境内でした。

東漸寺は臨済宗建長寺の末寺で、1301 年（正安 3）の開創とされる古いお寺です。

遺跡は、1928（昭和 3）年 9 月、当時「中原小学校」と呼ばれていた学校建設工事中に見られました。1972 年

（昭和 47）年には、東漸寺釈迦堂（県指定文化財）の修理の時に、小規模な発掘調査が行なわれました。2002 年（平成 14）に至り、校舎の解体工事の前に、校庭の北東隅の発掘調査を行ないました。校舎解体後の翌年 3 月には、新校舎建築予定地内の確認調査を行ない、引き続き本格的な調査を行ないました。鉄筋コンクリート基礎は、機械で取り除くと遺構が壊れてしまうため、これを残した状態で調査することにしました。

調査結果のあらまし

およそ 1,600 ~ 1,700 年前（古墳時代前期）と 550 ~ 700 年前にかけての時期（鎌倉時代終わり頃から室町時代）を中心とする時期のものが見つかりました。黒色土層の下は砂

の層で、昔の人びとが残した痕跡の多くは、この砂層に残されていました。

貝塚は、調査地の東側に見られます。どれも貝の堆積は薄く、10 ~ 15cm ほどで、黒色土に含まれ、おおわれていました。どの地点でも貝の種類はほぼ同じで、二枚貝ではハマグリ・シオフキガイが、巻き貝ではキサゴ類が多く、アサリ・サルボウ・カガミガイ・カキ・アカニシ・ツメタガイ・ウミナナなどが含まれていま

した。貝塚の形成時期は、出土遺物などから古墳時代前期と判断されました。

古墳時代前期の遺構には、竪穴住居址 1 軒、溝状遺構 6 条、土坑 7 基・炉址 1 基、土器集中出土地点 1 か所などがあります。遺物は土器のほか、網の錘に使われた土錘、鹿や猪などの獣骨や魚骨、削ったあとのある鹿の角、炭化米のかた



お墓から発見されたかわらけ

まりなどが見つかりました。

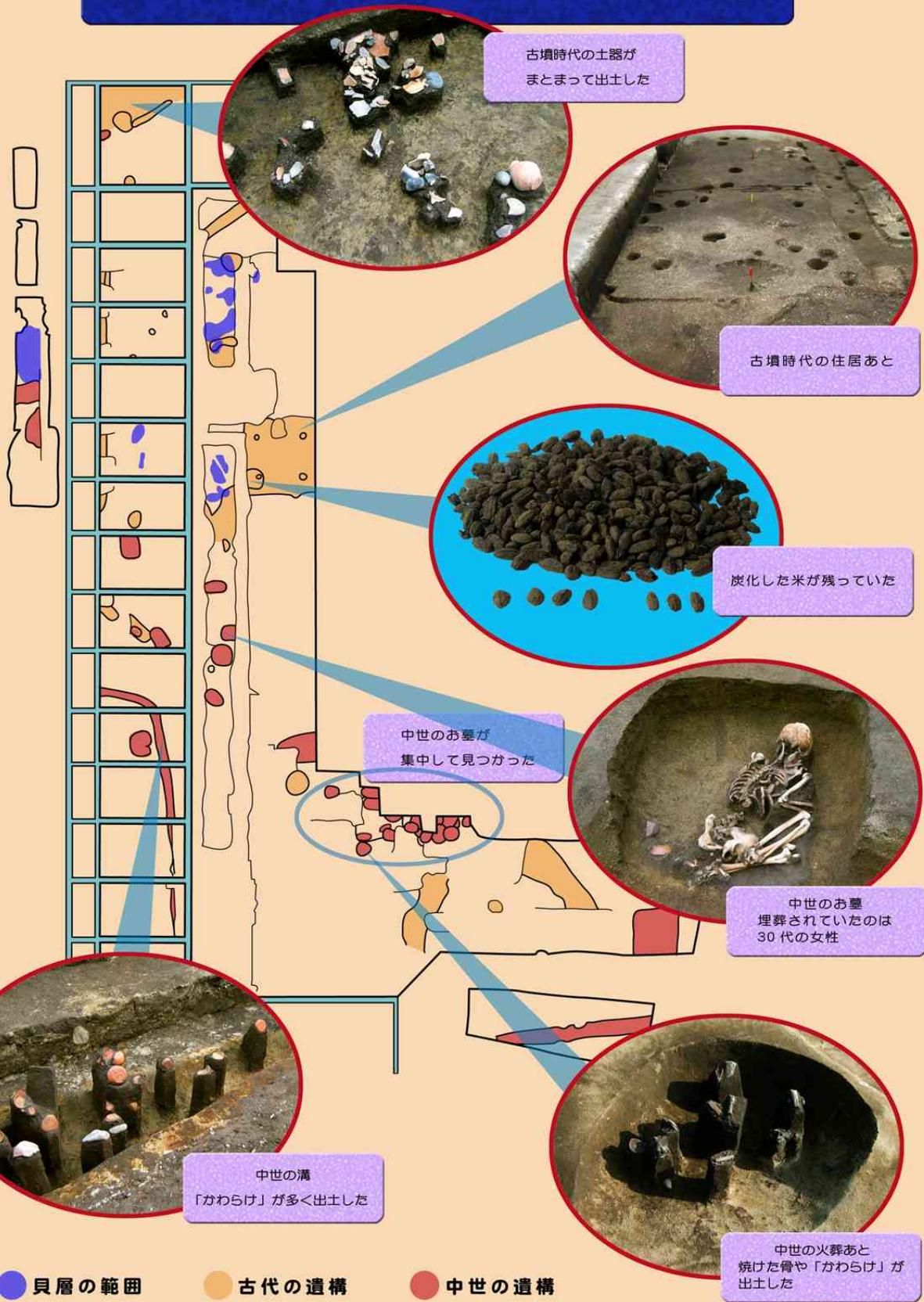
鎌倉時代以降のものは、溝状遺構 3 条、竪穴状遺構 3 基、道路状遺構 1 条、井戸状遺構 2 基、土坑 7 基、お墓が 20 基ほど見つかりました。出土遺物は、「かわらけ」と呼ばれる素焼きのお皿や陶器などがあります。お墓にはかわらけのほか、お金（銭）が副えられていました。この時期のモ



杉田東漸寺貝塚

遺跡の場所

杉田東漸寺貝塚 遺跡マップ





発見された貝塚



いろいろな土錘

のは、東漸寺に関係があると考えられます。

以上のほか、炭化米がたくさん出土した奈良・平安時代と推定される穴があります。その他の出土遺物には、少量の縄文土器片や土器片錘・石器、後期弥生土器片があります。縄文時代のものは、どれも磨り減っていました。

見つかった竪穴住居址はすまい？

調査区の東側で、古墳時代前期の竪穴住居址が1軒だけ見つかりました。一辺が5.9~6.0mほどの四角い形をしています。イロリ、4本の柱穴、「貯蔵穴」や「ハシゴ穴」とみられる施設も見つかりました。壁のきわには「壁溝」と呼ばれる幅15~20cmの溝が掘りめぐらされていました。このような構造は、一般的な竪穴住居址と何ら変わりません。浜辺の砂地に掘り込まれて作られている点が異なります。一般的な「すまい」とするよりも、作業場、あるいは出漁のさいの基地などとも考えられます。

残された宿題

砂地に残されたさまざまなくらしの痕跡、掘り上げてままとまった雨が降ると、砂が流れて形がなくなってしまいます。掘り上げては、

大急ぎで記録する作業の繰り返しでした。仮設校舎2階の窓越しに「オジサーン！ 頑張ってるねー！」と児童達に励まされたことを思い出します。

この遺跡については、まだ調べなければならないことがたくさんあります。また、新しい校舎ができた時には、教材として出土品などを展示する計画があります。これらは、今後に残された宿題です。少しでも充実した展示ができれば、と思います。そして今、「何かと不自由な学校生活、杉田小のみんなも頑張ってる！」と応援しています。

お墓に葬られたひとに副えられたもの

—おにぎり・ぜに・かわらけ—

今回の発掘調査で、東漸寺の墓地の一部が確認されました。土葬のほかには火葬とみられるものが3例ありました。墓地が営まれたのは、おおむね14世紀から明治時代と考えられます。江戸時代のものは、墓穴がはっきりしませんが、「寛永通宝」の出土によりその存在がわかります。

火葬墓では、木炭片や焼骨片に混ざって炭になった「おにぎり」が2例見つかりました。焼がれて炭になったために、残ったものです。うち1つは調査中に割れてしまい、中から「元宝通宝」など中国の北宋銭4枚が出てきました。このような例は、本紙6号でも紹介しています。もう1つの「おにぎり」にも入っている可能性があります。

土葬墓では、6枚の銭とかわらけの出土が目立ちました。銭には6枚が錆び付いているものもありました。

「おにぎり」は冥土に旅立つ死者の食料、銭は「六道銭」で、この世とあの世の境にあるとされる「三途の川」の渡し銭といわれます。「三途の川」は死んで7日目にわたるとされています。この川のほとりには鬼がいて、死者の衣を奪うといわれます。「六道」は、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天の六つの迷界をいいます。かわらけは、水やお酒を供えた器だったのでしょうか。

死者に副えられた物から、当時のひとびとの想いが伝わってきます。



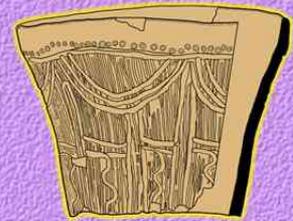
銭



おにぎり



催しもの案内



◆講座「横浜の考古学」の開催のご案内◆

今年の秋、10月から7回の予定で、埋蔵文化財センター主催による講座「横浜の考古学」を開催します。

開催日は平成16年10月7日(木)～11月18日(木)の毎週木曜日で、連続7回。

開催時間は午後2時から午後3時30分。

会場は横浜市歴史博物館(〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1 市営地下鉄「センター北」駅下車徒歩5分)の講堂です。

定員は70人です。

◆講座内容

- | | |
|-------------------------------|------|
| ◎10月7日 原始のいとなみ -アフリカから横浜へ- | 山田光洋 |
| ◎10月14日 縄文のムラ -ところかわれば- | 石井 寛 |
| ◎10月21日 横浜の貝塚に学ぶ -貝塚研究の挑戦者たち- | 中村若枝 |
| ◎10月28日 ヨコハマ農業事始 -弥生時代の横浜- | 武井則道 |
| ◎11月4日 南武蔵の埴輪と古墳 | 鈴木重信 |
| ◎11月11日 中世びとの祈り -都筑の経塚と火葬墓- | 坂本 彰 |
| ◎11月18日 横浜と赤レンガ | 坂上克弘 |

なお、参加条件は7回参加できる方となっております。また、資料代として3500円が必要となります。

希望者は往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ、「横浜の考古学」と書いて申し込んでください。申し込みが多数の場合は抽選となります。締め切りは9月21日到着分までといたします。

◆申し込み・問い合わせ先

横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター

〒224-0034 都筑区勝田町760

TEL 045-593-2406

埋蔵文化財センターのご案内

出土品や整理作業のようすを見学できます(予約が必要です)。埋蔵文化財や歴史に関する質問も歓迎します。

開所：午前9時～午後5時。土・日・祝日休み。

交通：東横線「綱島駅」より東急バス1番乗り場「勝田折返所」行終点。田園都市線「江田駅」より東急バス「綱島駅」行「勝田」下車。

ホームページアドレス

<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/maibun/index.html>

*「埋文よこはま」は、横浜地域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

埋文よこはま 9

発行日 2004年3月28日

編集・発行 財団法人横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒224-0034 横浜市都筑区勝田町760

TEL 045-593-2406

FAX 045-593-2403